

NGO・外務省定期協議会 2016年度 ODA 政策協議会
NGO 側振り返り

ODA 政策協議会コーディネーター一同

■2016年度 ODA 政策協議会議題一覧

◎第1回 ODA 政策協議会 2016年7月28日(木) / 外務省

〔報告事項〕

(1) SDGs の ODA 政策への反映について

【大野 容子 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン / 動く→動かす / SDGs 市民社会ネットワーク】

【西野 修一 外務省 国際協力局 地球規模課題総括課 首席事務官】

(2) 平成28年度開発協力重点方針について

【豊田 尚吾 外務省 国際協力局政策課 企画官】

(3) 特定秘密の指定における ODA 関連情報等の取扱いについて

【西井 和裕 名古屋 NGO センター】

【山田 欣幸 外務省 官房総務課 企画官】

〔協議事項〕

(1) G8 食料安全保障及び栄養のためのニューアライアンス

【森下 麻衣子 オックスファム・ジャパン】

【高橋 清貴 ODA 改革ネット】

【渡辺 直子 日本国際ボランティアセンター】

【小林 成信 外務省 国際協力局 開発協力企画室 室長】

【今福 孝男 外務省 国際協力局 国別開発協力第三課 課長】

(2) 「中東地域の安定化に向けた貢献策」としてのシリアの和平と和平の基盤づくりに向けた取り組みについて

【平山 恵・森野 謙 シリア和平ネットワーク / シリア支援団体サダーカ】

【七澤 淳 外務省 中東アフリカ局 中東第一課 課長】

【今福 孝男 外務省 国際協力局 国別開発協力第三課 課長】

◎第2回 ODA 政策協議会 2016年12月1日(木) / 外務省

〔報告事項〕

(1) 2017(平成29)年度外務省予算要求における ODA 関連予算要求の重点項目について

【加藤 良太 (特活) 関西 NGO 協議会】

【豊田 尚吾 外務省 国際協力局 政策課 企画官】

(2) 南スーダンに対する ODA の実績と現政府に関する日本政府の認識及び援助の方針

【谷山 博史 (特活) 日本国際ボランティアセンター】

【市場 裕昭 外務省 国際協力局 国別開発協力第三課 首席事務官】

(3) 国際女性会議 WAW! 2016 の開催について

【北郷 恭子 外務省 総合外交政策局 女性参画推進室 室長】

(4) プロサバンナ事業に関する意見交換会および活動報告

【渡辺 直子 日本国際ボランティアセンター】

【市場 裕昭 外務省 国際協力局 国別開発協力第三課 首席事務官】

〔協議事項〕

SDGs 実施指針について

【大野 容子 (公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン/SDGs 市民社会ネットワーク】

【西岡 達史 外務省 国際協力局 地球規模課題総括課 課長】

◎第3回 ODA 政策協議会 2017年2月23日(木) /福岡 リファレンス 駅東ビル

〔報告事項〕

(1) 人権の尊重とその実質化について

【垣内 つね子 言論・表現の自由を守る会】

【牛尾 滋 外務省国際協力局参事官・NGO 担当大使】

(2) SDGs 実施指針について

【大野 容子 (公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン/SDGs 市民社会ネットワーク】

【牛尾 滋 外務省国際協力局参事官・NGO 担当大使】

(3) 日本の ODA におけるジェンダー視点の主流化について

【織田 由紀子 日本女性監視機構/(特活) 北九州サステナビリティ研究所/SDGs 市民社会ネットワーク】

【牛尾 滋 外務省国際協力局参事官・NGO 担当大使】

〔協議事項〕

(1) SDGs 実施 地域ステークホルダーとの連携について

【本田 正之 (特活) NGO 福岡ネットワーク】

【牛尾 滋 外務省国際協力局参事官・NGO 担当大使】

(2) モザンビーク「ナカラ経済回廊開発」とガバナンス・人権

【楠原 圭子 ADB 福岡 NGO フォーラム】

【牛尾 滋 外務省国際協力局参事官・NGO 担当大使】

■成果と課題

【成果】

外務大臣政務官(第2回)、国際協力局長(第1回、第2回)、NGO大使(第1~3回)の出席のもと、友好的かつ緊張感を持った関係の中で協議することができた。とりわけ、2016年度の開発協力重点方針について(第1回)、2017年度のODA関連予算要求の重点項目について(第3回)など、ODAの政策・予算両面の動向について議論の機会を持ち、本協議会の重要なミッションのひとつである「政策のアカウンタビリティを高める」(本協議会実施要項より)一助とすることができた。

2016年度はSDGsの実施に歩み出す一年であり、本協議会でもSDGsのODA政策への反映について(第1回)、SDGs実施指針について(第2回、第3回)、SDGs実施 地域ステークホルダーとの連携について(第3回)など、継続して議論された。その内容として、1) ODA政策や予算においてSDGsをどう反映し実現するか、2) SDGsの国内実施に向けた実施指針のあり方や、国際協力をはじめとした市民社会や地域社会との連携をどうするか、など幅広い議論を行い、これにより、SDGsの実施に向けてNGO・外務省双方が多くの学びと示

唆を受けることができた。

厳しい国際情勢や安全状況の下での国際協力のあり方についても、シリア（第1回）、南スーダン（第2回）、モザンビーク（第2回・第3回）など、具体的な対象国やプロジェクトを挙げて議論を行った。時に NGO・外務省双方の認識の違いが浮き彫りになり、厳しい議論となることもあったが、真に現地の人々の利益となり、平和をもたらす国際協力を模索するために、引き続き議論を進めていきたい。

2015年度の名古屋（JICA 中部）に引き続き、福岡（第3回）において連携推進委員会と共に地域開催を行うことができた。九州のみならず、中国・四国地域の NGO の参加もあり、ODA 政策や NGO と ODA の連携のあり方について、また、こうした政策対話の場に地域 NGO が参加しやすい環境を整えるためにどのようなことが必要であるか、貴重な意見を多数聞くことができた。

【課題】

開発協力重点方針や ODA 予算要求について取り扱ったものの、年間の政策や予算の策定サイクルに合わせた時期に議論することができず、実際の政策や予算への提言が十分ではなかった。また、開発協力大綱策定時に NGO 側が挙げた運用上の課題についてのモニタリングと、上記の議論を連携して行うことについての取り組みが不十分であった。以上のような反省と、2016年度の成果を踏まえて、2017年度では以下の項目に重点的に取り組みたい。

- (1) 開発協力重点方針および ODA 予算について
 - ・開発協力大綱策定時に議論されたポイント（非軍事の徹底等）の確認
 - ・重点方針の内容および次年度以降の方針について
 - ・予算実績と評価、次年度予算要求について
- (2) SDGs の実施について
 - ・ODA 政策における SDGs の反映・実施について
 - ・SDGs の国内とりわけ地域展開と、そのための政策環境の整備について
- (3) 市民社会の自由な言論・活動スペースの擁護について
 - ・ODA および海外安全に関する特定秘密指定について
 - ・国内外における市民社会の言論・活動の自由について

■2017年度 NGO 側運営体制

2017年度は、前年度から継続の6名のコーディネーターに加え、若干名（1名程度）のコーディネーターを公募中であり、公募・選考の結果、着任が決定した場合は、本年度第1回 ODA 政策協議会までに着任する予定である。

<コーディネーター（6名・ABC 順）>

原 征治（ODA 改革ネットワーク九州 世話人）

加藤 良太（（特活）関西 NGO 協議会 理事）

西井 和裕 ((特活) 名古屋 NGO センター 理事長)
大野 容子 ((公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー担当/
 (一社) SDGs 市民社会ネットワーク 進行役)
高橋 良輔 ((特活) NGO 福岡ネットワーク 理事)
谷山 博史 ((特活) 国際協力 NGO センター 理事長)
・(新任のコーディネーター1名程度を予定)

※本年度の事務局業務については、コーディネーターの大野を中心に、各コーディネーターが
分担・協働して担う形式で運営する。

以 上